

日本社会薬学会・第13回東海支部例会報告

テーマ：～薬剤師を取り巻く現状～

講演会「薬剤師を取り巻く現状が語りかけること」

日本社会薬学会第13回東海支部例会が“薬剤師を取り巻く現状”をテーマとして、平成21年3月15日（日）名城大学薬学部情報メディア教室において、講演会が開催され日本社会薬学会会員、その他東海地区の薬剤師、薬学部教員が参加しました。

名城大学薬学部長谷川洋一教授から「薬剤師を取り巻く現状が語りかけること」と題し、薬剤師の需給動向、医薬分業の状況、医薬品の承認審査、薬剤師職能と資質の確保について詳細な統計的データを用いて講演されました。

薬剤師の需給動向では、薬科大学（薬学部）入学定員数の推移、18歳人口推移と薬学部定員の占める割合を示され、近年の私立薬科大学（薬学部）の新設に伴う薬学部定員の急激な増加により、この状況が続けば、推計上では数年後に「100人に1人」が薬剤師の時代が訪れるかもしれないと説明されました。

現在、薬剤師を取り巻く状況において、全国の医薬分業率は50%を超え増加する傾向を示し、薬学部卒業生（薬剤師）の就職動向では薬局への就職数は年々増加している。しかし今後、超高齢化社会の到来、生活習慣病予防や国民の健康志向による医療への意識の高まりを踏まえ、薬剤師が国民に対して何ができるか、何をすることが求められているかを様々な情報から読み取り対応できる体制を検討していくことが大切ではないかと講演されました。参加した会員や薬剤師から、薬剤師を取り巻く現状を踏まえ今後の方向性や動向について活発な質疑が交わされ有意義な講演会となりました。

なお、同日開催された東海支部総会で支部長の交代が審議され西田幹夫名城大学薬学部教授から飯田耕太郎名城大学薬学部准教授へ交代することが満場一致で可決されました。文責：東海支部長：飯田耕太郎（名城大学薬学部准教授）